

国際ロータリー第2620地区
静岡第5グループ



POWER HAMAMATSU
ROTARY CLUB
JAPAN

週報 パワー浜松ロータリークラブ

親睦と奉仕の扉へ

RI 会長 ホルガー・クナーグ/第 2620 地区がバナー 志田洪顯 /会長 中野敬司 /幹事 村田誠
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラクトシティホテル浜松内 Tel:053-452-0800
Email:info@power-hamamatsurc.jp http://www.power-hamamatsurc.jp
創立：2002 年 10 月 22 日 認証伝達式：2003 年 4 月 29 日 スポンサークラブ：浜松中 R C



第831回例会11月17日(火)AM7:30~8:30

- 会場：オークラクトシティホテル浜松 3 階 チェルシーの間
- 司会：中野雄介 村木則予 ■週報：内田勝善
- 点鐘：中野敬司 ■ロータリーソング：「奉仕の理想」
- ゲスト：刑務所伝道ミストリー代表、VIP 川口ホプ チャレンジ代表 進藤龍也様
並びに 奥様
米山記念奨学生 サイ・ピョー・ミエン・マオさん

出席報告/スマイル報告

会員数 76 名 (内出席免除会員 1 名)
出席数 62 名 出席率 82.67%

- ① スマイル
会員維持増強委員会・青少年育成
部会・中野会長・村田幹事

会長挨拶



おはようございます。浜松にも新型コロナの感染者が多く発生して、ついため息が出てしまいます。

先週の土曜日に会員維持増強委員会と親睦部会の協力を得て、入会 3 年以内の方にお声掛けし、昼食会を開きました。新入会員 6 名、両部会と会長・幹事の 12 名が参加し、会員維持増強委員の坂井さんから有意義なお話をいただいた後、食事をしながらゆったりとした時を過ごしました。このような交流会を密にならない様に気を付けつつ、可能な範囲で皆さんにも開催していただきたいな、と思っております。開催の為にご苦労された野田さん、三枝さん、ありがとうございました。

その昼食会で、曾布川美登理さんから「広報はままつ」の 11 月号に「人生会議」の事が掲載されてますよ、と言われました。去年、曾布川さんからその会合のモニターを依頼され、私は参加していたことを思い出しました。

人間は命の危険が迫った状態になると、およそ 70% の人が医療やケアを自分で決めたり、望みを伝えることができなくなるといわれております。その「もしもの時」のことを前もって考え、家族や主治医などと話し合い、自分の考え方を共有してもらおう仕組みを浜松市が中心となって推進している事業が「人生会議」だ

そうです。

その会合の出席者の方達と話し合いをする内に、私は気持ちの落ち着いている時や平静な状態の時に「もしもの時」の事を考えてみる事も必要なのかもと思いました。

市では医療・介護の専門職などによる地域包括ケアシステム推進連絡会を中心に「人生会議手帳」を作成したそうです。浜松市の HP に載っていますので、ご興味のある方はご覧ください。

私たちの仲間の曾布川さんがこのような活動に協力されている事をうれしく思いましたので、ご紹介させていただきます。

幹事報告

- ・初めての試みで本日役員会をオンラインで開催します。
- ・来週 24 日に理事会を開催する予定です。担当例会の議案提出よろしくお願いします。

スマイル報告

① 会員維持増強委員会

先週の土曜日 14 日に、新入会員の方たち 6 人と、中野会長・村田幹事・三枝親睦部会長・会員維持増強委員会のメンバーで昼食をとりながら親睦を深めました。早くパワーに馴染んで頂きロータリーライフを楽しんでください。

② 青少年育成部会

進藤先生ご夫妻に、貴重なお話ありがとうございました。薬物が浜松にも広がっていることを知り、なんとかしなければとお願い致しました。今後とも力添えをよろしくお願い致します。

③ 中野会長・村田幹事

進藤龍也様、本日は朝早くから素晴らしいお話をお聞かせいただきありがとうございます。

今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

卓話：進藤龍也様「青少年の薬物乱用に警鐘を鳴らす」

担当：青少年育成部会

<講師プロフィール>

1970 年、埼玉県蕨市生まれ。札幌のワルで、高校を喧嘩で中退し、18 歳でヤクザにスカウトされる。その後、広域指定暴力団 S 会系の組員になり、組長代行までのし上がる。しかし、覚せい剤のやりすぎで破門状態。3 回目の服役の際に、ある女性から差し入れられた聖書を読み、回心した。出所後は正式にヤクザから足を洗い、シロアムキリスト教会で洗礼を受ける。2005 年、神学校 2 年生の時に、開拓伝道を開始。弁財は「罪人の友」主イエス・キリスト教会の主任牧師として活動。とくに、文通、面会を通して、日本各地の受刑者への福音伝道に勤めている。また、出所しても行き場のない者たちを教会へ受け入れ社会復帰までのサポートをしている。

刑務所伝道ミニストリー代表

VIP 川口ホープチャレンジ代表(南三陸支援 & 薬物問題アドバイザー) を歴任



暴力団に 15 年間所属していました。そのうち、覚せい剤で 7 年ほど刑務所にいました。浜松にも覚せい剤が多く流通しています。覚せい剤は、酒と同じで軽い気持ちで誘われ、軽い気持ちでやってしまいます。牧師になって 15 年経ちました。これからは罪を犯さないように生きています。覚せい剤は家族も苦しいです。低年齢化も進んでいます。私は、小学 3 年から両親とご飯を一緒に食べていません。両親は豪勢な料理を用意はしてくれましたが、一緒に食べなかったため、おいしいねと一緒にいえる環境でなく、食べても涙がでてました。教会をやっているのは、人々が信じる場所を作るためです。子どもは愛しているよといっても一緒にいないと伝わりません。人々が幸せになることが私の喜びです。子どもが親に手を出すことはいけません。親は間違っても「生んだ覚えはない」と言っていけない。

子どもの声を拾うことはすごく大事です。覚せい剤中毒の人は、覚せい剤をしないと生活ができません。覚せい剤をしないと、食っちゃ寝を繰り返すのみで生活ができない。これを直すには、人間関係をよくしないといけない。薬物依存を直すには一生リハビリです。これからも立ち直るために学ぶつもりでいます。

